

令和元年 8 月 1 日

越谷保育専門学校
校長 山崎美美夫

令和元年度学校関係者評価報告書の公表について

学校関係者評価委員会による本校の「令和元年度学校関係者評価報告書」を公表します。

なお、本校の学校関係者評価で使用した自己評価報告書の様式は、特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構が作成した文部科学省ガイドライン準拠版Ver4.0を使用しました。

令和元年 8 月 1 日

越谷保育専門学校
校長 山崎芙美夫 様

越谷保育専門学校
学校関係者評価委員会
委員長 池田 祥子

令和元年度第 1 回学校関係者評価委員会報告

令和元年度第 1 回学校関係者評価委員会において実施した「平成 30 年度自己評価報告書」に対する評価結果について、下記のとおり報告します。

記

1 学校関係者評価委員会委員名簿

委員長：池田祥子委員

池田 祥子	社会福祉法人杉の子保育会理事
石田 高幸	学校法人石田学園理事長 社会福祉法人わせだ会わせだっこ中央保育園長
植竹 清文	学校法人植竹学園 認定こども園わかばの森園長
奥木 幹夫	埼玉県立越谷東高等学校長
岡 美那子	社会福祉法人 まあれ愛恵会 さいたまたいよう保育園長
曾野 麻紀	十文字学園女子大学 人間生活学部幼児教育学科 准教授
中島新太郎	元埼玉県吉川市立北谷小学校長、元吉川中央公民館長

(五十音順)

2 学校側事務局

山崎芙美夫	学校法人ワタナベ学園理事長兼越谷保育専門学校長
美入 昌男	越谷保育専門学校副校長兼学科長
古塩 秀明	同 事務長
会田 秀樹	同 教務部学科主任
東海林 孝	同 教務部学科主任
渋谷るり子	同 教務部学科主任
菊地 秀典	同 事務長代理
小林 恵二	同 事務部参事
佐々木舞子	同 専任教員

3 委員会開催状況

日時：令和元年6月19日（水） 午前9時15分～午前11時10分

会場：越谷保育専門学校 201 教室

参加委員：上記委員 6名、学校側事務局 8名

4 委員会次第

開会

(1) 委嘱状交付

(2) 委員の紹介

(3) 校長挨拶

(4) 授業見学

(5) 議長選出

(6) 協議

ア 学校概要の説明

イ 学校関係者評価の進め方の説明

ウ 「平成30年度自己評価報告書」に対する評価の実施

エ 学校関係者評価の総評と意見交換

オ その他

(6) その他

ア 次回の開催予定

イ その他

閉会

5 学校関係者評価結果

別紙のとおり

別紙

令和元年度越谷保育専門学校 第1回学校関係者評価報告書

令和元年6月19日

1 学校概要の説明

本校は幼稚園教諭2種免許状、保育士資格が取得できる教員養成機関であると同時に、指定保育士養成施設であります。今年度の入学式が第51回となりました。現在は幼稚園教諭保育士養成学科100名定員の1学科となっています。

2 授業見学

科目	(授業担当者)	教室名
音楽 I A ピアノ基礎	(横関先生、永島先生、前田先生)	401 教室
図画工作 I A	(平田先生)	図工室
情報機器の操作	(高倉先生)	PC室
幼児の運動 B	(坂田先生)	リズム室

3 学校関係者評価の進め方の説明

校長挨拶の中で「自己評価報告書」1、学校の理念、2、本年度の重点目標と達成計画の報告説明が行われたので、3、評価項目別取り組み状況から協議することとなった。

基準1について山崎校長から、基準2については美入副校長から、基準3については会田学科主任から説明が行われた。

4 「平成30年度自己評価報告書」に対する評価の実施

1 学校の理念、教育目標	・特に指摘事項なし
2 本年度の重点目標と達成計画	・特に指摘事項なし
基準1 教育理念・目的・育成人材像	・特に指摘事項なし
基準2 学校運営	・特に指摘事項なし
基準3 教育活動	・特に指摘事項なし
基準4 学修成果	・特に指摘事項なし
基準5 学生支援	

5-17-1 【退学率の低減が図られているか】 評定2

(委員) 他の養成校の情報で得ているものは何かあるか。

(学校) 校長がいろんな32の養成校を回っている。同じような学校から良いところを今後参考にしながらどういうシステムを使っているか等、考えていければと思う。

(委員) 退学理由はどのような点が挙げられているのか。学業についていけないのか、経済的な理由か。

(学校) 進路変更、経済的理由、学業面が主な理由である。単位取得が出来ず、退学するケースも多い。

(委員) 履修システムについては、学生は理解しているのか。

(学校) 本校は卒業して資格を取得出来るため、そのことについても学生は理解している。規定以上の出席が必要であることも理解している。

(学校) 他の養成校に入った時に本校で取得した科目の単位を認定する制度もある。

しかしながら、10年に一度カリキュラムが変更されるため、内容等も変わった際は認定が難しい場合もある。

基準6 教育環境

・特に指摘事項なし

基準7 学生の募集と受け入れ

(委員) 専門学校同士の比較や学生募集、定員についてはどうか。

(学校) 本校は、卒業時に幼稚園免許と保育士資格が取得出来る学校である。

いわゆる併修校ではない。本校と同様の制度である27校（都内の保育専門学校）と共に、そのことを一緒にアピールしていきたい。埼玉の専門学校では本校だけであり、他校とも協力しながらお互いにアピールしていく。

(委員) 例えば、退学後に別の養成校に入学した際、これまでに修得した単位を退学後も活かすことは出来るか

(委員) 1年時に未修得の単位は2年時に受講することは可能であるのか。

(学校) 本校は平日に4限までの開講となるため、次年度の必修科目と時間割が重なっていると卒業は難しい。ほぼ2年の前期まで時間割は入っている。教職実践演習という科目は、教職科目を全て履修済でない受講出来ない科目である。2年で卒業が出来ないことが分かった時点で、退学を考える学生もいる。実習に関しても同様である。

(委員) 行政や政府も変わってきている。自分で保育士を取得して働きたいと思う時代である。将来的なことを考えると、もう少し履修取得に関して柔軟な対応をしても良いのではないか。

(学校) 本校は幼稚園教諭と保育士を両方取得出来る学校である。

保育士単位は取得出来る学生に、保育士のみ資格を与えることは今の制度上出来ない。文科省と厚労省の両方の認定を頂いているということプラスに捉え、27校に入っているというところを大切に考え、アピールしていきたい。

(委員) 今、時代は保育士である。数年勤めた後に幼保特例制度を使えば簡単に幼稚園教諭は取得出来る。

そのため、学校の運営や存続を考えていくのであれば、柔軟な対応や制度を考えられるか。

(学校) 保育士が足りないと話題になるが、同じように問題になるのは、質の問題である。
本校は、保育の質は絶対に落とせないところであると考えている。
非常に難しいところではあるが、卒業すれば全員両方の資格や免許が取れると
いうことを強くアピールし、今度も対応していきたい。

基準 8 財務

・特に指摘事項なし

基準 9 法令等の遵守

・特に指摘事項なし

基準 10 社会貢献・地域貢献

・特に指摘事項なし